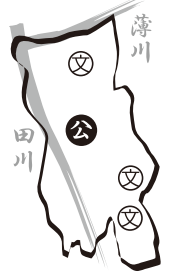


### 庄内地区で安心して心地よく暮らすシリーズ①

## 館報

# 庄内



庄内地区	
令和2年1月1日現在人口	
世帯数	6,939戸
男	7,374人
女	7,375人
合計	14,719人
発行 庄内地区公民館 (ゆめひろば庄内)	
電話 24-1811 FAX 24-1812	

今回の館報では、子育て中のパパ・ママのための情報をお届けします。赤ちゃんや児童が元気に育ってくれることを願い、庄内地区の住民が活発に活動していますよ！



### 町会未加入世帯も訪問 こんにちは 赤ちゃん事業

厚労省が平成19年度に創設した「生後4か月までの乳児全戸訪問事業」に基づいて、松本市は平成21年度より「こんにちは赤ちゃん事業」を実施しています。松本市に住民登録

された赤ちゃんを各地区の民生児童委員がお祝いの木彫りのスプーンをもって訪問します。庄内地区は毎月10件以上の赤ちゃん訪問があります。地区独自に手作りのりんごカードも贈り、乳幼児育児に役立つ連絡先などをお知らせしています。例えば、松本市夜間救急センターや小児救急電話相談の電話番号などです。日時をあわせての訪問は確かに労を要しますが、生まれたてのかわいい赤ちゃんに会えるのはうれしいことです。子育てに奮闘中の親御さんたちに、「みんなが応援していますよー！」と伝えたいし、何か困っていることがあれば、力になりたいと思っ訪問しています。



### 新米ママ・パパも安心 やむを得ず 0〜3歳の未就園児を対象

0〜3歳の未就園児を対象にした親子サークルです。庄内地区福祉ひろばを拠点に主に第1・第3月曜日午前10時に活動しています。こどもプラザの先生を招いて手遊びや体操、工作を行ったり、講師の方を招いて講習を受ける事も。今年度は美容師さんを招いてキッズヘアカットを習ったり、フットケアの講習を受けたりしました。その他、公園遊びや果物狩りに出かけるなど充実した活動をしています。この特徴は、ママたち自身で企画運営していることです。一人では中々できない子育てのことを、皆の力で実現していこうと活動しています。また、毎回主任児童委員さんが見守ってくくださるので、新米ママさんでも安心して参加する事ができます。そうしたやり取りの中でコミュニケーションが生まれ、気軽に育児情報の交換などを

### 親子で楽しむ Family Time

行える場を目指しています。未就園児の親子を対象とした育児サークルで、5〜2月の毎月第3火曜日午前に庄内地区公民館で活動しています。運営は庄内地区公民館5部門委員会のひとつ「子育て委員会」が行っています。人生経験豊富なスタッフや、子どもたちやその保護者らが喜ぶ顔を思い浮かべながら行事を企画しています。中でも好評なのは、8月に行う野菜収穫体験です。スタッフの畑をお借りし、4月にトマトやじゃがいも、きゅうりやナスの苗植えをし、大切に育てて準備します。収穫当日は子どもたちやお母さん方が汗をかきつつも、大いに盛り上がりながら野菜を収穫します。その後の茶話会では、スイカやスタッフ手作りの漬物が美味しいと評判です。他にも、親子体験や絵本の読み聞かせ、木の玩具で思いっきり遊んだり、七夕やクリスマスでは食事を楽しんだりしています。ママ友を作ったり、料理の話をしたり、情報交換の場にもなっているので、孫の御守りをしているおじいちゃんや

### 情緒豊かな時間 おはなす会

「ゆめの会」では、赤ちゃんや保育園・幼稚園に入る前のお子さん向けに、絵本や大型絵本、紙芝居などを使ったお話し会を行っています。場所は庄内地区公民館1階図書コーナーで、原則毎月第2火曜日午前10時半より開催しています。お話し会は20分程度です。「小さなお子さんを連れて来ると、泣いたりぐずったりしたらどうしよう?」と心配される方もいらっしゃるかと思いますが、そんな事は気にせず、気軽にお越しください。赤ちゃんからでも楽しめるようがんばっています。ゆめの会の活動は皆さまからの応援をいただき、昨年12月に100回を迎えることができました。次回は3月10日となります。お会いできる事を楽しみにしています。



### 主役は元気な子どもたち 庄内地区子ども会育成会

私たち育成会は、庄内地区に住む児童が健やかに成長し、友達や地域住民との絆を深め、地域のことを好きになつてくれることを願い、年間を通じて様々な行事を行っています。また、子どもの自主性を磨ききつかけ作りとして、庄内地区15町会の児童による「やまびこ子ども会」という会の運営サポートを行っています。

育成会最大の行事は7月に行う「やまびこ子どもまつり」です。やまびこ子ども会役員を中心にテーマや企画を決め、地区の青年会や様々な団体、PTAの方々と協力してブースを盛り上げます。子どもたち自身が楽しみ、大勢の来場者の笑顔が溢れる日です。  
夏休みには庄内地区公民館で一泊二日のお泊り会をします。昨年は防災要素を取り入

れ、仮設トイレとダンボールベッドの組立体験や備蓄米でカレーを食べたりしました。

10月は庄内地区全体の大きな行事「ドリム庄内」秋のつどい「防災運動会」が開かれ、育成会も企画段階から参加しています。防災意識の向上、世代を超えた結束や顔の見える関係作りができるよう、子どもたちや保護者の皆さんに参加を呼びかけています。

また、地域の伝統行事「三九郎」が毎年1月に各所で行われます。ご神木と松飾り、組み立てた三九郎を燃やし、米粉で作った繭玉をその火で焼いて食べると一年間健康に暮らせると伝えられています。しかし、近年では三九郎に使う柱の組み立て方が分からないといった問題があるため、育成会では12月に「三九郎作り方講習会」を行い、保護者の方も子どもたちと一緒に御神木の立て方や縄の結び方を学びます。

昨今では誰もが忙しく、思うように行事に参加できない子どもも増えてきました。しかし育成会では子どもたちがひとつでも行事に参加して楽しかったと思えるよう活動して行きたいと思っています。

### 安心の居場所 児童センター

並柳児童センターは並柳小学校に隣接しており、地域の方との交流も盛んな施設です。地域にお住まいの方々が、子どもたちのために読み聞かせ、絵手紙、卓球などを定期的にを行っています。

12月は「お正月飾り」を作りました。リース風のしめ縄の中央に水引き付きの扇を飾り、南天や松葉を散らせます。夕方方にオリジナルの素敵なしめ縄ができあがると、子どもたちはみんな満足気な笑顔でお家に持ち帰りました。

当センターの一番の魅力は、並柳小学校開校20周年行事で造られた「オアシスパーク」で遊ぶ子どもたちの姿です。パークには小川のせせらぎがあり、橋が架かる池があり、おたまじゃくしやザリガニが棲んでいます。夏は木陰が強い日差しを遮ってくれます。ブランコやターザンロープなどの遊具があり、子どもたちは飽きることなく外遊びを楽しんでいます。このオアシスパークは、遊びの場であると同時にストレス発散の場・癒しの場でもあり、子どもたちはかけがえのない時間を過ご

しているのです。

筑摩児童センターは今年度当初の登録児童87人でスタートしました。子どもたちの安全を守るため、4月と7月は当センター独自で、10月は庄内地区福祉ひろばとこどもプラザを含めた三施設合同での避難訓練を行いました。

当センターは、ほぼ毎日工作教室を行っており、子どもたちは季節感のある小物を作っています。新緑の季節では、母の日のためのハーバリウムや父の日のための牛乳パックの小物入れを、夏の頃は七夕人形や敬老の日に向けたフェルトの花をつけたクリップを制作。秋から冬にかけては牛乳パックを使ったハロウィンバスケット制作、ミニクリスマスツリーを作りました。

以上の活動は職員の指導や支援が中心ですが、子どもも運営委員会を中心とした児童による活動があります。10月には5年生企画のハロウィンパーティー、12月には2年生企画のお楽しみ会「しっぽ取り」、全児童によるクリスマス会などです。運営に携わった子どもたちの顔には、自分たちで成し遂げたという自信と誇りが浮かんでいます。



「トロッコ問題」というのをご存知ですか？

線路上を暴走するトロッコに人が1人乗っており、あなたはその線路の切替場所にあります。すぐ近くで線路が分岐しており、右側は崖ですが、左側は線路内に大勢の人がいます。右を選択すれば犠牲者は1人、左を選択すれば大惨事。あなたはどちらを選択しますか？

これは多数の犠牲者を防ぐには1人の犠牲者が出てしまうのかを問う思考実験です。皆さんの選択はどうなのか、大変興味のあるところです。災害に直面すれば似たような状況があるかもしれません。

本来、災害救助は自衛隊や消防のレスキュー隊など専門家の仕事ですが、救助要請してから時間を要します。一刻を争うとき救助を待つてはいただけません。その時、私たちに何ができるのか考えておく必要があります。先程の問題に出た線路の切替場所は安全でしょうか、災害時は私たちの安全は確保されていますか。その状況下で私たちの持つ倫理観とか道徳観が試されることになるでしょうね。(H)